

【ポイント】

- ✓ 「自地域のみならず国全体の強靱化に貢献するバックアップ機能を発揮する」という北海道の強靱化ビジョンを踏まえ、南富良野町においても同様に、「町自らの強靱化」のみならず「国・道の強靱化のバックアップ」の観点から、地域計画に「広域防災拠点の整備」、「緊急輸送道路及び地域交通ネットワークの整備」を推進すべき施策（構想）として明記
- ✓ さらに、地域計画に記載した施策の具体化・事業化を図るため、首長自らのトップセールスにより国等の関係機関に対する周知、情報発信、要望等を実施

1. 取組の内容

【取組の経緯】

- 南富良野町は、北海道の中央部に位置し、我が国の太平洋沿岸で甚大な被害が想定される日本海溝・千島海溝地震発生時や活火山である十勝岳噴火時にも被害が少ないものと見込まれるといった自然災害リスクへの強みがある。
- さらに、道北・道央と道東を繋ぐ交通上の要衝であること、さらには道内有数の食料供給能力を有していることなどから、国や道の強靱化を図る上での貢献ができるものと考えた。
- そこで、南富良野町の地域計画では、「町自らの強靱化」のみならず「国・道の強靱化のバックアップ」の観点をビジョンとして盛り込み、それぞれで今後推進すべき施策（構想）等を打ち出している。

【取組推進上の工夫】

- 「国・道の強靱化のバックアップ」の観点から特に重視する施策（構想）は、①「広域防災拠点の整備」及び②「緊急輸送道路及び地域交通ネットワークの整備」の2つであり、令和2年3月の地域計画策定時からリスクシナリオに基づく重点施策として明記している。
- 地域計画本体とは別に、2つの構想イメージをまとめた「計画概要」資料を作成し、計画本編とともに、町のwebサイトにも掲載して対外的な情報発信に活用しつつ、構想の背景（北海道の自然災害リスク）や地理的特性（強み）、期待し得る効果などを首長自らが周知、情報発信、要望等を行う資料として使用している。

(計画概要の抜粋※町webサイトに掲載)

重点施策の一例：広域防災拠点の整備

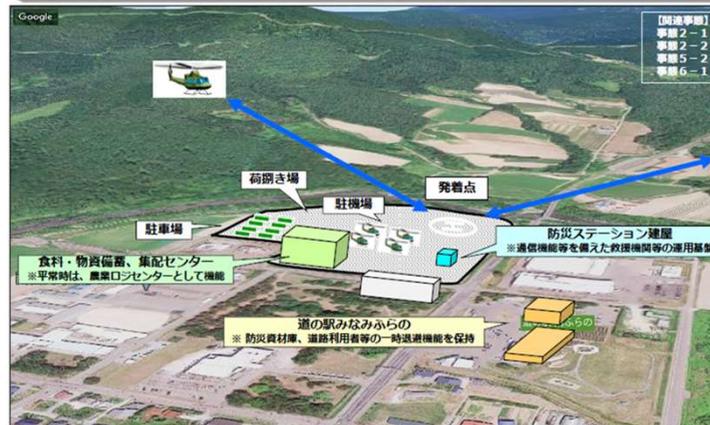
町域での災害対応のみならず、道や国の強靱化に貢献するためのバックアップ機能を発揮するためには、十勝岳噴火に伴う大規模山林火災発生時の対処基盤、日本海溝・千島海溝地震発生時に道央・道北から道東地区へ救援する際の前方支援基盤、或いは物資の集配、物流の中継基盤等としての機能を備えた防災拠点の整備が必要です。



北海道の中央部に位置し、道路ネットワークと併せ道内の空陸の交通上の要衝であるとともに、十勝岳方向への良好な空中進出経路と水源を有する本町の地理的特性や農業生産に根ざした食料供給能力を最大限に生かしたバックアップ機能を発揮するため、河川防災ステーション整備事業、道の駅再編事業とも連携して物資の備蓄、集配、荷捌き等の機能を具備し、車両やヘリなど空陸両面での運用が可能な広域防災拠点の整備を図ります。

南富良野町の強靱化に係る重点施策：支援物資供給等の基盤となる総合的な広域防災拠点の整備 広域防災拠点に備える機能と施設（イメージ）

道北・道央圏と道東圏を結ぶ空陸交通の要衝に整備する広域防災拠点として情報・通信、食料・物資の備蓄・集配、駐車・駐機、荷捌き、資機材の集積・管理といった総合的な防災機能を備え、救援活動時における前方支援基盤、救援物資輸送の中継基盤等として最大限に活用



2. 取組により得られた効果

- ①「広域防災拠点の整備」については、平成30年石狩川水系河川整備計画空知川河川整備計画〔変更〕において位置付けられている「空知川幾寅地区河川防災ステーション（仮称）」をその中核として構想している。
- 現時点においては、平成28年8月の水害からの復興事業の一つとして、空知川南富良野幾寅地区地域連携防災事業が推進されており、河川防災ステーションの整備促進や承認に向け、南富良野町が地域全体のバックアップ機能を発揮するための「広域防災拠点の整備」構想について継続的に国土交通省（札幌開発建設部）のみならず広く対外的に広報・要望活動を展開している。
- その効果もあり、河川防災ステーションについては、現在施設配置等の設計が進められており、今後、整備計画の決定（承認）を経て、運用開始に向けた施設整備が進んでいく見込みである。
- 一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会により行われている、第9回「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)」の「国土強靱化地域計画賞」部門にエントリーし、前述した国・北海道の強靱化をバックアップする構想が評価されて部門最高賞の金賞を受賞した。